霞ヶ浦会館照明設備改修工事

A-01	改修特記(R4_1章~3章)
A-02	改修特記(H31_4章~5章)
A-03	改修特記(R4_6章~8章)
A-04	改修特記(H31_個人情報取扱注意事項)
A-05	案内図
A-06	配置図
E-01	送電系統図
E-02	_LED照明器具姿図
E-03	1階既設照明器具配置図
E-04	1階改修照明器具配置図
E-05	1階屋外照明器具配置図
E-06	3 · 4 階照明器具配置図

霞ヶ浦:	会館照明設備改修工事 工事特記仕様書		○振動、騒音、ほこりのでる作業やその他について、事前に施設管理者及び近隣施設等と調整を 行うこと。	□ ① 完成図	・提出する ※提出しない 種類 ※改修標仕表1.8.1による
総則			17,000。 ↑		・配置図及び案内図 ・各階平面図
	1. 工事場所 三重県四日市市大字羽津甲5162番地の1		建設重機を使用し周辺への影響に配慮すること。		・各立面図 ・断面図
			・工事期間中は、近隣住民の安全確保に努めること。		・仕上表・施工図
	2. 工事種目		○同一敷地内での別途工事について、協議に応じること。		・施工計画書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
			・2020 / / ~ / は工事を行わないこと。 ・工事期間は、 / ~ / とする。尚、 / ~工事担当確認後事前使用を行うこととする。		※CADデータの提出 ※提出する 提出しない 保全に関する資料 提出部数 ※1部
1. 共通仕様	**ナルマヤハ本では、同土大阪少十匹京京京と巻送館を吹「ハサ沖等で吹て本種準儿	⑥ 発生材の処理	・ 上		・床土に関する具件 使山即奴 ※「叩・・
	成されてない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕 下「改修標仕」という。)による。ただし、改修標仕に記載されていない事項は、国	9 7.1 H 0 7.2 4	○特別管理産業廃棄物 ※無 ·有 () 処理方法 ()	❷記録	工事記録については以下による。(A4版)
	営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(令和4年版)(以下「標仕」という。)による。		○ 特定建設資材の搬出		※工事着手前写真 1 部
			再資源化等を行う(再資源化が困難な場合には縮減)		※工程写真 各工程毎 1 部
2. 特記仕様			○特定建設資材以外の搬出・構外搬出適正処理		※竣工写真 ※内部、外部 2 部
(1)項目は、〇印の付いたも			※ 廃棄物管理票(マニフェスト)確認表を作成し、監督職員にA票及びD票もしくはE票の確認を受けるものとする。ただし、電子情報処理組織に登録(電子マニフェスト)に		※工事の各記録写真については、デジタル画像にて整備編集を行うよう努めること。 ※工事日報・納品伝票等の写しは、監督職員が提出を求めた場合は提出すること。
(2)特記事項は、⊙印の付い	いたものを適用する。 ※印の付いたものを適用する。		より確認を行う場合は、この限りではない。		
○印と②印と③印の付いた場合			※建設発生土 (50m3以上)を搬出する場合は、書面にて処分地の報告(位置図等)を行うこと。	⑤ 設備工事と	この取合い 施工範囲 ※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の補強
(3)特記事項に記載の[.] 内表示番号は、改修標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。		また、処分地が民有地の場合、土地所有者からの建設発生土受入承諾書の写しを提出すること。		※図示した壁・天井の仕上材・下地材の切込み及び補強
(4)特記事項に記載の(標.)内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。	0 + 17 + 4 + 17		16 設計GL	V □ = の ペン
****	0/	⑦ 交通安全管理 ⑧ 建築材料等	交通誘導員 ※配置する 名以上 (大型車の出入は必ず) ①配置しない [1.3.9] ※本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又は同等のものとする。	IN EXETGE	※図示のベンチマーク(B.M) mm (現状地盤はB.M mm)
	⊙ 無 ·有() ⊙ 無 ·有()	少 建来物种等	ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。	17 完成引渡し	- 人後の点検 かし期間は、別に定めた特約(責任施工による保証期間など)を除き、四日市市工事請負契約 -
אוור נל קון			・品質及び性能を試験により証明を求める材料は以下の物とする。 [1.4.5]		書に準拠する。
1) 保険及び保証	○ 建設工事保険 (保険証の写しを提出)		(・工事完成引渡し後、必要に応じて一年又は二年を超えない範囲の適当な時期に、双方
	●請負業者賠償責任保険 (保険証の写しを提出)	② 化学物質を発散する	本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するも		立ち会いで工事目的物のかし点検を実施する。
	(◎管理財物担保特約に加入のこと)	建築材料等	のとし、次の 1) から 5) を満たすものとする。 1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、パーティクル	18 随時検査	予定価格(税込)3000万円以上の工事は、四日市市検査規程第8条第6項の規定により、 発注者が随時検査を求めた場合、監督職員の指示に従い受検すること
2)建設共済等	・任意にて加入 下記の制度について加入すること。		ボード、MDF、その他木質建材、ユリア樹脂板及び仕上げ塗料は、ホルムアル	19 施工体制台	光注有が随時候直を水めた場合、監督職員の指示に使い支候すること 計帳の提出 公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の定めにより、施工体制台帳の写しを
	●法定外労災補償制度 (加入証明書の写しを提出)		デヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。	1 25 11 472	提出すること。なお、警備事業者についても記載すべき下請負の範囲に含むものとする。
	●建設業退職金共済制度 当初の請負金額が500万円以上の場合は、掛金収納書を提出する		2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散	2 ① 足場その他	内部足場 種別 ※きゃたつ、足場板等・ [2.2.1]
	こと。また、増額の契約変更があった場合についても、その分を		が極めて少ないものとする。	_ 章	外部足場 種別 ※くさび緊結式(手すり先行工法)・ [2.2.1]
	提出すること。 共済証紙購入額 請負金額の 1/1000以上		3) 接着剤は、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しな い難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン	仮	防護シートによる養生 ・行わない
	なお、他の退職金制度に加入している等、共済証紙を購入する必要がない場合は、理由書の 提出をもって共済証紙の購入を不要とする		キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。		材料、撤去材等の運搬 ・ A 種 ※ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ E 種 [2.2.1] [表2.2.1]
	・ 任意にて加入		4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、	設 2 養生その他	
>	※資材の購入及び下請け業者の選定に際しての留意事項		発散が極めて少ないものとする。	エージを主ての他	固定家具等の移動 ※行わない ・行う(図示)
	資材の購入及び工事の一部を下請け業者にて施工する場合、業者の選定に際しては、	1	┃5) 1)及び 4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等 ┃	事	
		1			
	出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。	3 仮設間仕切	
章 項 目				3 仮設間仕切	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装
	出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。	3 仮設間仕切	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装
○ 適用基準等	出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品	3 仮設間仕切	種別 下地 仕上材(厚さ mm) 充てん材 塗装 ・A種 ※軽量鉄骨 ・合板(※9.0 ・) ※無し ・B種 ・木下地 ※せっこうボード(※9.5 ・) 厚さ mm ・片面 ・C種 単管下地 防炎シート
① 適用基準等 1 章	出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品	3 仮設間仕切	種別 下地 仕上材(厚さ mm) 充てん材 塗装 ・A種 ※軽量鉄骨 ・合板(※9.0 ・) ※無し ・B種 ・木下地 ※せっこうボード(※9.5 ・) 厚さ mm ・片面 ・C種 単管下地 防炎シート ※無し 仮設扉 ※木製扉 ・合板張り程度 ※無し
① 適用基準等 1 章 _ ② 工事実績情報の登録	出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用	3 仮設間仕切	種別 下地 仕上材(厚さ mm) 充てん材 塗装 ・A種 ※軽量鉄骨 ・合板(※9.0 ・) ※無し ・B種 ・木下地 ※せっこうボード(※9.5 ・) 厚さ mm ・片面 ・C種 単管下地 防炎シート
① 適用基準等 1 章 ② 工事実績情報の登録 3 品質計画	出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品	3 仮設間仕切 4 監督職員事	種別 下地 仕上材(厚さ mm) 充てん材 塗 装 ・A種 ※軽量鉄骨 ・合板(※9.0 ・) ※無し ・B種 ・木下地 ※せっこうボード(※9.5 ・) 厚さ mm ・片面 ・C種 単管下地 防炎シート ※無し 仮設扉 ※木製扉 ・合板張り程度 ※無し ・銅製扉 ・片面フラシュ程度 ・有り
① 適用基準等 1 章 _ 般 共 通	出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用		種別 下地 仕上材(厚さ mm) 充てん材 塗 装 ・A種 ※軽量鉄骨 ・合板(※9.0 ・) ※無し ・B種 ・木下地 ※せっこうボード(※9.5 ・) 厚さ mm ・片面 ・C種 単管下地 防炎シート ※無し 仮設扉 ※木製扉 ・合板張り程度 ※無し ・銅製扉 ・片面フラシュ程度 ・有り
① 適用基準等 1 章 一 般 共 通 事	出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 機格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用	4 監督職員事 ⑤ 工事用水	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充 てん材 塗 装 ・ A種 ※軽量鉄骨 ・ 合板 (※9.0 ・) ※無し ・ B種 ・ 木下地 ※せっこうボード (※9.5 ・) 厚さ mm ・ 片面 ・ C種 単管下地 防炎シート 仮設扉 ※木製扉 ・ 合板張り程度 ・ 銅製扉 ・ 片面フラシュ程度 ※無し ・ 有り *務所 ・ 設ける 規模等は以下による ・ 既存施設の一部を使用する ※設けない [2.4.1] (・規模 ㎡程度 ・ 仕上げ:床 、壁 、 天井 程度) 構内既存の施設 ※利用できる (・有償 ◆無償) ・ 利用できない
① 適用基準等 1 章 一 般 共 通 事 項 ② 工事実績情報の登録 ラ 会員計画 ラ は の の の の の の の の の の の の の の の の の の	出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ①JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a.非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b.接着剤等不使用 c.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d.ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 e.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用	4 監督職員事 ③ 工事用水 ⑥ 工事用電力	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ・ A種 ※軽量鉄骨 ・ 合板 (※9.0 ・) ※無し ・ B種 ・ 木下地 ※せっこうポード (※9.5 ・) 厚さ mm ・ 片面 ・ C種 単管下地 防炎シート 仮設扉 ※木製扉 ・ 合板張り程度 ・ 銅製扉 ・ 片面フラシュ程度 ※無し ・ 複模等は以下による ・ 既存施設の一部を使用する ※設けない [2.4.1] (・規模 ㎡程度 ・ 仕上げ:床 、壁 、 天井 程度) 構内既存の施設 ※利用できる (・有償 ②無償) ・ 利用できない
① 適用基準等 1 章 一 般 共 通 事 項 ② 電気保安技術者	出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 機格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用	4 監督職員事 ⑤ 工事用水	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ・ A種 ※軽量鉄骨 ・ 合板 (※9.0 ・) ※無し ・ B種 ・ 木下地 ※せっこうポード (※9.5 ・) 厚さ mm ・ 片面 ・ C種 単管下地 防炎シート 仮設扉 ※木製扉 ・ 合板張り程度 ・ 銅製扉 ・ 片面フラシュ程度 ※無し ・ 複模等は以下による ・ 既存施設の一部を使用する ※設けない [2.4.1] (・規模 ㎡程度 ・ 仕上げ:床 、壁 、 天井 程度) 構内既存の施設 ※利用できる (・有償 ②無償) ・ 利用できない
① 適用基準等 1 章 一 般 共 通 事 項 ② 電気保安技術者	出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 機格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種	4 監督職員事 ⑤ エ事用水 ⑥ エ事用電力 1 既存下地の	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※無し ・ A種 ※軽量鉄骨 ・ 合板 (※9.0 ・)
① 適用基準等 1 章 一 般 共 通 事 項 ② 電気保安技術者	出来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 規格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の7第 4 項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 規格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E o 規格品	4 監督職員事 ③ 工事用水 ④ 工事用電力 1 既存下地の 3 処置	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※無し ・ A種 ※軽量鉄骨 ・ 合板 (※9.0 ・)
① 適用基準等 1 章 一 般 共 通 事 項 ② 電気保安技術者	世来る限り市内業者を優先させること。	10 桂明か材料のエギ	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 規格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の7第 4 項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 規格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E の規格品 ④旧 J A S の F co 規格品	4 監督職員事 ③ 工事用水 ④ 工事用電力 1 既存下地の 処置 2 アスファル 防水	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※無し ・ A種 ※軽量鉄骨 ・ 合板 (※9.0 ・)
① 適用基準等 1 章 一 ② 工事実績情報の登録 ② 品質計画 共通 事項 ④ 電気保安技術者	出来る限り市内業者を優先させること。	10 特別な材料の工法 11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆ ☆ 規格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料時用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E o 規格品 ④旧 J A S の F c c 成 な に 対象の を は は 対象の F c が な が は は は 対象 を は は は 対象 日 な に な に な に な に な に な に な に な に な に な	4 監督職員事 ③ 工事用電力 ① 工事用電力 1 既存置 2 アスファル 防水改	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※無し ※軽量鉄骨 ・合板 (※9.0 ・)
① 適用基準等 1 章 一 ② 工事実績情報の登録 ② 品質計画 共通 事項 ④ 電気保安技術者	世来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 規格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 規格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E の規格品 ④旧 J A S の F c c 成 な に 表 る に み る に み な な に み な な に み な に み な な に み な な な な	4 監督職員事 ⑤ エ事用用水電の工事用用下で ⑥ 工既存置ファル ② アスファル	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※無し ※軽量鉄骨 ・合板 (※9.0 ・)
① 適用基準等 1 章	世来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 規格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の7第 4 項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第 2 0 条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E の規格品 ④旧 J A S の F c c の規格品 ④旧 J A S の F c c が開発品 改修標仕、標性に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。 ※適用する ・適用しない [1.6.2]	4 監督職員事 ⑤ エ事用来 ⑥ エ事用下 ⑥ エのの 1 既の置 2 アスファル 防水改修	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※無し ・ A種 ※軽量鉄骨 ・ 合板 (※9.0 ・)
① 適用基準等 1 章	世来る限り市内業者を優先させること。		は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b.接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのEo規格品 ④旧JASのFco規格品 ④旧JASのFco規格品 む修標仕、標仕に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。 ※適用する ・適用しない ・鉄筋施工 ・型枠施工 ・鉄工 ・塗装 ・左官 ※防水施工 ・建築大工 ・サッシ施工 ・内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン [1.6.9]	4 監督職員事 ⑤ エ事用用水電の工事用用下で ⑥ 工既存置ファル ② アスファル	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※無し ・ A種 ※軽量鉄骨 ・ 合板 (※9.0 ・) ※無し ・ B種 ・ 木下地 ※せっこうボード (※9.5 ・) 厚さ mm ・ 片面 ・ C種 単管下地 防炎シート 仮設扉 ※木製扉 ・ 合板張り程度 ・ 銅製扉 ・ 片面フラシュ程度 ・ 海製扉 ・ 片面フラシュ程度 ・ 海製扉 ・ 片面フラシュ程度 ・ 海製扉 ・ 片面フラシュ程度 ・ 海内既存の施設 ※利用できる (・有償 ◯無償) ・ 利用できない 構内既存の施設 ※利用できる (・有償 ◯無償) ・ 利用できない 構内既存の施設 ※利用できる (・有償 ◯無償) ・ 利用できない 「3.3.2~3] [表3.1.1] 表3.3.3~10] 下水改修工法の種類 施 工 箇 所 新規防水層の種別 アスファルトの種類 ※3種 ・ 押え金物 ※アルミニウム製 (L-30x15x2.0程度) 脱気装置 ・ 製造所の指定する製品 ・ ステンレス製 設置数量 ()箇所 改修用ドレン ※設ける (箇所) ※銅製 ・ 鉛製 ・ 設けない [3.2.5] 屋根保護防水断熱工法に用いる断熱材 材質 ※押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA (スキン層付き)
① 適用基準等 1 章	世来る限り市内業者を優先させること。	11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b.接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料時用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料時用 第三種 ①JIS及びJASのF☆☆☆ 規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのEo規格品 ④旧JASのFco規格品 ④旧JASのFco規格品 ④旧JASのFco規格品 む修標仕、標仕に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。 ※適用する ・適用しない ・鉄筋施工 ・型枠施工 ・鉄工 ・塗装 ・左官 ※防水施工 ・建築大工 ・サッシ施工 ・内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン エチルベンゼン、パラジクロロベンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。	4 監督職員事 ⑤ エ事用用水電の工事用用下で ⑥ 工既存置ファル ② アスファル	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※無し ・ A種 ※軽量鉄骨 ・ 合板 (※9.0 ・)
① 適用基準等 1 章	世来る限り市内業者を優先させること。	11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b.接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのEo規格品 ④旧JASのFco規格品 ④旧JASのFco規格品 む修標仕、標仕に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。 ※適用する ・適用しない ・鉄筋施工 ・型枠施工 ・鉄工 ・塗装 ・左官 ※防水施工 ・建築大工 ・サッシ施工 ・内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン [1.6.9]	4 監督職員事 ⑤ エ事用用水電の工事用用下で ⑥ 工既存置ファル ② アスファル	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※無し ・ A種 ※軽量鉄骨 ・ 合板 (※9.0 ・) ※無し ・ B種 ・ 木下地 ※せっこうボード (※9.5 ・) 厚さ mm ・ 片面 ・ C種 単管下地 防炎シート 仮設扉 ※木製扉 ・ 合板張り程度 ・ 銅製扉 ・ 片面フラシュ程度 ・ 海製扉 ・ 片面フラシュ程度 ・ 海製扉 ・ 片面フラシュ程度 ・ 海製扉 ・ 片面フラシュ程度 ・ 海内既存の施設 ※利用できる (・有償 ◯無償) ・ 利用できない 構内既存の施設 ※利用できる (・有償 ◯無償) ・ 利用できない 構内既存の施設 ※利用できる (・有償 ◯無償) ・ 利用できない 「3.3.2~3] [表3.1.1] 表3.3.3~10] 下水改修工法の種類 施 工 箇 所 新規防水層の種別 アスファルトの種類 ※3種 ・ 押え金物 ※アルミニウム製 (L-30x15x2.0程度) 脱気装置 ・ 製造所の指定する製品 ・ ステンレス製 設置数量 ()箇所 改修用ドレン ※設ける (箇所) ※銅製 ・ 鉛製 ・ 設けない [3.2.5] 屋根保護防水断熱工法に用いる断熱材 材質 ※押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA (スキン層付き)
① 適用基準等 1 章	世来る限り市内業者を優先させること。 特 記 事 項 ②建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ※江事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編	11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆ 対格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 a 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 対格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E o 規格品 ④旧 J A S の F c c が ない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。 ※適用する ・適用しない ・鉄筋施工 ・型枠施工 ・鉄工 ・塗装 ・左官 ※防水施工 ・建築大工 ・サッシ施工 ・内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン エチルペンゼン、パラジクロロペンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。 測定は、パッシブ型採集機器により行う。	4 監督職員事 ⑤ エ事用用水電の工事用用下で ⑥ 工既存置ファル ② アスファル	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充 てん材 塗 装
① 適用基準等 1 章	世来る限り市内業者を優先させること。 特 記 事 項 ②建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ※江事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 5 年版) ※請負金額が 500万円以上の場合は、登録を行う。 [1.1.4] ※建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事 ※風速 (Vo)=34 m毎秒 地表面相度 ※Ⅲ(Zb=5 Zg=450 α=0.20) ・Ⅱ(Zb=5 Zg=350 α=0.15) 積雪区分 ※30 cm ・40 cm ・適用する。 ②適用しない。 [1.3.3] 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする。 ・般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 ②工事用車両の駐車場及び資機材置場 ※敷地内 ・ [1.3.5] ・工事着手前に周辺住民への工事説明会が開催される場合は資料作成等に協力すること。 ・現場工事は月~金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。 ・別場工事は月~金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。 ・②施工作業時間は原則8:30~17:00とすること。清掃片付け等は18:00までとすること。 ②施工作業時間は原則8:30~17:00とすること。手続きに係る手数料は受注者の負担とする。・ 仮囲い等について周辺住民等の安全上、使用上支障がないように計画し、維持管理に努めること。 ③ 工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で進めること。 ③ 大型車両通行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること。	11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ①JIS及びJASのF☆☆☆ 規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a.非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b.接着剤等不使用 c.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d.ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料時用 f.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料時用 第三種 ①JIS及びJASのF☆☆☆ 規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのEo規格品 ④旧JASのFco規格品 ④旧JASのFco規格品 ②接集基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③ホーム・適用しない ・鉄筋能工・型枠能工・鉄工・塗装・左管 ※防水能工・建築大工・サッシ施工・内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン エチルベンゼン、パラジクロロベンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。測定は、パッシブ型採集機器により行う。着工前測定・行う・行わない 測定対象室・図示・測定箇所数・図示・	4 監督職員事 ⑤ エ事用用水電の工事用用下で ⑥ 工既存置ファル ② アスファル	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※
① 適用基準等 1 章	世来る限り市内業者を優先させること。 特 記 事 項 ②建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ※江事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 5 年版) ※請負金額が 500万円以上の場合は、登録を行う。 [1.1.4] ※建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事 ※風速 (Vo) = 34 m毎秒 地表面租度 ※Ⅲ(Zb=5 Zg=450 α=0.20) ・Ⅱ(Zb=5 Zg=350 α=0.15) 積雪区分 ※30 cm ・40 cm ・適用する。 ②適用しない。 [1.3.3] 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気 主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする。 一般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 ②工事用車両の駐車場及び資機材置場 ※敷地内 ・ [1.3.5] ・工事着手前に周辺住民への工事説明会が開催される場合は資料作成等に協力すること。 ③施工作業時間は原則8:30~17:00とすること。清掃片付け等は18:00までとすること。 ②施工事は月~金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。 ③施工作業時間は原則8:30~17:00とすること。清掃片付け等は18:00までとすること。 ②施工作業時間は原則8:30~17:00とすること。手続きに係る手数料は受注者の負担とする。・ 仮囲い等について周辺住民等の安全上、使用上支障がないように計画し、維持管理に努めること。 ③工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で進めること。 ③支機材の搬出入は第三者の安全に留意して、災害及び事故の防止に努めること。 ②支機材の搬出入は第三者の安全に留意して、災害及び事故の防止に努めること。 ②大型車両通行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること。	11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のある J A S 規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③ 旧 J I S の E o 規格品 ④ 旧 J A S の F c o 成 の を の つ で の で の で の で の で の 表 を で を で を で を か か か を で を で で が の 水 か で の ま ・ を で で か 水 か エ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ で ま ・ と で で い 水 が エ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ で ま ・ と で で い 水 が エ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ で ま ・ と で で い 水 が エ ・ ・ ・ ・ で ま ・ と で で い 水 が エ ・ ・ と で で い 水 が エ ・ ・ と で ・ ・ 大 い ル ム アルデヒド、トルエン、キシレン	4 監督職員事 ⑤ エ事用用水電の工事用用下で ⑥ 工既存置ファル ② アスファル	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm)
① 適用基準等 ① 1 章	世来る限り市内業者を優先させること。 特 記 事 項 ②建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ※工事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 5 年版) ※請負金額が 500万円以上の場合は、登録を行う。 [1.1.4] ※建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事 ※風速 (Vo)=34 m毎秒 地表面租度 ※皿(Zb=5 Zg=450 α=0.20)・Ⅱ(Zb=5 Zg=350 α=0.15) 積雪区分 ※30 cm ・40 cm ・適用する。 ②適用しない。 [1.3.3] 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気 主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする。 一般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 ・ 現場工事前に周辺住民への工事説明会が開催される場合は資料作成等に協力すること。 ・ 現場工事は月~金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。 ②施工作業時間は原則8:30~17:00とすること。清掃片付け等は18:00までとすること。 ②施工作業時間は原則8:30~17:00とすること。清掃片付け等は18:00までとすること。 ②施工作業時間は原則8:30~17:00とすること。手続きに係る手数料は受注者の負担とする。・ 仮囲い等について周辺住民等の安全上、使用上支障がないように計画し、維持管理に努めること。 ②工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で進めること。 ②工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で進めること。 ②ブ機材の搬出入は第三者の安全に留意して、災害及び事故の防止に努めること。 ②ブ機材の搬出入は第三者の安全に留意して、災害及び事故の防止に努めること。 ②ブ機材の搬出入は第三者の安全に留意して、災害及び事故の防止に努めること。 ②ブ機材の搬出入は第三者の安全に留意して、災害及び事故の防止に努めること。 ②ブ機材の搬出入は第三者の安全に留意して、災害及び事故の防止に努めること。	11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a.非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b.接着剤等不使用 c.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 d.ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのEo規格品 ④旧JASのFco規格品 ④旧JASのFco規格品 ③BHJISのEo規格品 ④IBJASのFco規格品 ②対象室・適用しない ・鉄筋施工・型枠能工・鉄工・塗装・左官 ※防水施工・型枠に・サッシ施工・内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン エチルペンゼン、パラジクロロペンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。 測定は、パッシブ型採集機器により行う。 着工前測定・行う・行わない 測定対象室・図示・ 測定対象室・図示・ 測定箇所数・図示 採取方法・文部科学省の定めるところによる。・ 報告書の様式 濃度測定記録表の記載事項は、次のとおり	4 監督職員事 ⑤ エ事用用水電の工事用用下で ⑥ 工既存置ファル ② アスファル	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装
① 適用基準等	世来る限り市内業者を優先させること。 特 記 事 項 ②建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ※江事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 5 年版) ※請負金額が 500万円以上の場合は、登録を行う。 [1.1.4] ※建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事 ※風速 (Vo) = 34 m毎秒 地表面租度 ※Ⅲ(Zb=5 Zg=450 α=0.20) ・Ⅱ(Zb=5 Zg=350 α=0.15) 積雪区分 ※30 cm ・40 cm ・適用する。 ②適用しない。 [1.3.3] 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気 主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする。 一般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 ②工事用車両の駐車場及び資機材置場 ※敷地内 ・ [1.3.5] ・工事着手前に周辺住民への工事説明会が開催される場合は資料作成等に協力すること。 ③施工作業時間は原則8:30~17:00とすること。清掃片付け等は18:00までとすること。 ②施工事は月~金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。 ③施工作業時間は原則8:30~17:00とすること。清掃片付け等は18:00までとすること。 ②施工作業時間は原則8:30~17:00とすること。手続きに係る手数料は受注者の負担とする。・ 仮囲い等について周辺住民等の安全上、使用上支障がないように計画し、維持管理に努めること。 ③工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で進めること。 ③支機材の搬出入は第三者の安全に留意して、災害及び事故の防止に努めること。 ②支機材の搬出入は第三者の安全に留意して、災害及び事故の防止に努めること。 ②大型車両通行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること。	11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a.非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b.接着剤等不使用 c.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 d.ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのEの規格品 ④旧JASのFco規格品 ④旧JASのFco規格品 ③はよるの上での規格品 ③はよるの上での規格品 ③はよるの上での規格品 ③が続性、標性に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。 ※適用する・適用しない ・鉄筋施工・型枠施工・鉄工・塗装・左官 ※防水施工・型枠施工・鉄工・塗装・左官 ※防水施工・建築大工・サッシ施工・内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン エチルベンゼン、パラジクロロベンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。 測定は、パッシブ型採集機器により行う。 着工前測定・行う・行わない 測定対象室・図示・ 測定箇所数・図示 採取方法・文部科学省の定めるところによる。・ 報告書の様式 濃度測定記録表の記載事項は、次のとおり	4 監督職員事 ⑤ エ事用用水電の工事用用下で ⑥ 工既存置ファル ② アスファル	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm)
① 適用基準等	出来る限り市内業者を優先させること。 特 記 事 項 ②建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ※工事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編	11 技能士	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆ ☆ ☆ 共 4 項による国土交通大臣認定品 ②下記表示のある J A S 規格品 ②建築基準法施行令第20条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある J A S 規格品 ③非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 ○. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 「. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① J I S 及び J A S の F ☆ ☆ ☆ 規格品 ②建築基準法施行令第20条の 7 第3項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E の規格品 ④旧 J A S の F c の 提 の 表 で で 表 ま で 表 ま で 表 ま で 表 ま で ま で ま で ま	4 監督職員事 ⑤ エ事用用水電の工事用用下で ⑥ 工既存置ファル ② アスファル	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm)
① 適用基準等	世来る限り市内業者を優先させること。 特 記 事 項 ②建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ※ 工事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 5 年版) ※ 請負金額が 500万円以上の場合は、登録を行う。 [1.1.4] ※ 建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事 ※ 風速 (Vo) = 34 m 毎秒 地表面租度 ※Ⅲ (Zb=5 Zg=450 α=0.20) ・Ⅱ (Zb=5 Zg=350 α=0.15) 積雪区分 ※ 30 cm ・40 cm ・適用する。 ②適用しない。 [1.3.3] 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気 主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする。 一般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 ② 工事用車両の駐車場及び資機材置場 ※ 敷地内・ [1.3.5] ・工事着手前に周辺住民への工事説明会が開催される場合は資料作成等に協力すること。 ③ 施工作業時間は原則8:30~17:00とすること。清掃片付け等は18:00までとすること。 ② 施工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。 ③ 加工事に関わる法令手続きは受注者にて行うこと。手続きに係る手数料は受注者の負担とする。・ 仮囲い等について周辺住民等の安全上、使用上支障がないように計画し、維持管理に努めること。 ② 工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で進めること。 ③ 工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で進めること。 ④ 工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で進めること。 ④ 工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で選めること。 ④ 工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で選めること。 ④ 工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で選めること。 ④ 工程計画については、関係者等と十分に調整を行ったとで選整を行ったとで発して、災害及び事故の防止に努めること。 ④ 工程計画については、関係者等と十分に調整を行ったとで調整を行ったとで表述の表述を設定して、受強保に努めること。 ④ 工程計画については、関係者等と十分に調整を行ったとで表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表	11 技能士 12 化学物質の濃度測定 ※暴力団等不当介入に	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行今第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a.非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b.接着剤等不使用 c.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 d.ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 f.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 f.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ①JIS及びJASのF☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのEo規格品 ④旧JASのFco規格品 ④旧JASのFco規格品 ②修標性、標仕に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。 ※適用する ・適用しない ・鉄筋・・建築大工 ・サッシ施工 ・一次表 ・ 大き官 ※防水施工 ・型枠施工 ・鉄工 ・金装 ・ 左官 ※防水施工 ・型枠施工 ・ サッシ施工 ・ 中、大上にが一、大力・大力・大力・大力・大力・大力・大力・大力・大力・大力・大力・大力・大力・大	4 監督 職員事 (⑤ エ事用電地の 1 処アスファル 2 アススファル	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 塗 装 ・ A種 ※軽量鉄骨 ・ 合板 (※9.0 ・)
① 適用基準等	出来る限り市内業者を優先させること。 特 記 事 項 ②建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ※江事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 5 年版) ※請負金額が 500万円以上の場合は、登録を行う。 [1.1.4] ※建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事 ※風速 (Vo)=34 m毎秒 地表面粗度 ※Ⅲ(Cb=5 Zg=450 α=0.20) ・Ⅱ(Zb=5 Zg=350 α=0.15) 積雪区分 ※30 cm ・40 cm ・適用する。 [1.3.3] 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気 主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする。 一般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 一般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 ②工事用車両の駐車場及び資機材置場 ※敷地内 . [1.3.5] ・工事着手前に周辺住民への工事説明会が開催される場合は、整督職員の承諾を得ること。 ②施工工際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。 ②加工事は関係とい、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。 ②加工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。 ②加工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。 ②工事に関わる法令手続きは受注者にて行うこと。手続きに係る手数料は受注者の負担とする。 ・仮囲い等については、関係者等と十分に調整を行った上で進めること。 ③工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で進めること。 ③工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で進めること。 ④工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で進めること。 ④ プ環機材の搬出人は第三者の安全に留意して、災害及び事故の防止に努めること。 ②大型車両通行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること。 ④ 大型車両通行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること。 ④ 大型車両通行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること。 ④ 大型車両通行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること。 ④ 大型車両通行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること。 ④ 大型車両通行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること。 ④ 大型車両通行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること。 ○ 大型車両通行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること。 ○ 大型車両通行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること。 ○ 大型・配置は、対域を持続して、対域を持続では、対域を持続して、対域を持続して、対域を持続して、対域を持続して、対域を持続して、対域を持続して、対域を持続して、対域を持続して、対域を対域を持続して、対域を対域を対域と対域と同じに対域と対域を対域と対域と対域と対域を対域と対域と対域と対域と対域と対域と対域と対域と対域と対域と対域と対域と対域と対	11 技能士 12 化学物質の濃度測定 12 化学物質の濃度測定 ※暴力団等不当介入に 1. 契約の解除 の四日市の締結	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ①JIS及びJASのF☆★☆ 規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a.非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しないが対性用 d. ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 ff. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ①JIS及びJASのF☆☆☆ 規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのEの規格品 ④旧JASのFoの規格品 ④旧JASのFoの規格品 ②修藤性、標性に配載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。 ※適用しない ・鉄筋施工・・塑体施工・・鉄エ・・塗装・・左官 ※防水施工・・連葉大エ・・サッシ施工・・内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン エチルベンゼン、パラジクロベンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。測定は、パッシブ型採集機器により行う。着エ前測定・・行う・・行わない 測定対象室・・図示・・ 課定対象室・・図示・・ 、また、・ 、また、	4 監督 職員 東 本 力 の	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm)
① 適用基準等	世来る限り市内業者を優先させること。 特 記 事 項 ②建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版) ※工事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 5 年版) ※請負金額が 500万円以上の場合は、登録を行う。 [1.1.4] ※建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事 ※風速 (Vo)=34 m毎秒 地表面租度 ※Ⅲ(Zb=5 Zg=450 α=0.20) ・Ⅱ(Zb=5 Zg=350 α=0.15) 積書区分 ※30 cm ・40 cm ・適用する。 ②適用しない。 [1.3.3] 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気 主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする。 一般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 ②工事用車両の駐車場及び資機材置場 ※敷地内 ・ [1.3.5] ・工事着手前に周辺住民への工事説明会が開催される場合は資料作成等に協力すること。 ③施工作策時間は原則の:30~17・00とすること。 第場工事は月~金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。 ②施工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。 ③施工作験しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。 ②加工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。 ②加工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。 ②加工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。 ②加工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。 ②加工に関しては、長輩の登上で、災害及び事故の防止に努めること。 ③工程計画については、関係者等と十分に調整を行ったとで基めること。 ③直報を行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること。 ④工程計画については、関係者等と十分に調整を行ったと、選出を所管官庁へ提出すること。 ③直路の汚損がないように努めると共に、汚損した場合は直ちに清掃を行うこと。 ・工事により発生する残土や廃材、汚泥等は適切処理を行うこと。また、窯場を設け、敷地外への泥水の流出を防止すること。 ※産業廃業物税	11 技能士 12 化学物質の濃度測定 *※暴力団等不当介入に 1. 契約の解除 0. 四日市の縁結 第3条又は第4格 入札参加	は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外 ① J I S 及び J A S の F ☆ ☆ ☆ 規格品 ② 建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品 ③ 下配表示のある J A S 規格品 a.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 ⑤ J I S 及び J A S の F ☆ ☆ ☆ 規格品 ② 建築基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E o 規格品 ④旧 J A S の F c の 表 ☆ ☆ 規格品 ④ 連禁基準法施行令第 2 0 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③旧 J I S の E o 規格品 ④ 他 J A S の F c 成 表 ☆ 技格品 ④ 地方 A S の F c 成 表 ☆ 技格品 ④ 地方 A S の F c 成 表 な が 表 な を 表 と 意 と 適用しない ・鉄筋施工・型枠施工・鉄工・金装・左官 ※防水施工・建築大工・サッシ施工・内装仕上げ施工 施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン エチルベンゼン、パラジクローペンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。測定は、パッシブ型採集機器により行う。 着工前測定 ・ 行う っ 行わない 測定対象室 ・ 図示・ 測定	4 監督 用電地 1 処 ス ス ま	種別 下 地 仕上材 (厚さ mm)

-	調査範囲 ・既存モルタル面 ①躯体コンクリート面 ・図示の範囲 調査内容 ひび割れ(0.2mm以上)の長さを表示する。また、ひび割れ部の挙動のす	[1.5.2] mm	⑥既存塗膜等の除去及 び下地処理	既存塗膜劣化部の除去及び下地処理の工法 加 理 銃 囲	[4.6.3] [表4.6.2~5] 6 鋼製建具 下地面の補修 7 鋼製軽量建具	簡易気密型ドア ・使用する ※使用しない [5.5.2] [5.5.2]
	調食内容 いい割れ (0.2mm以上) の長さを表示する。また、いい割れ部の季期の作 漏水の有無及び鯖汁の流出の有無を調査する。	™` / 	ひじ地処理	工法処理範囲	下地面の補修 7 鋼製軽量建具 ひび割れ部改修工法	・製造所標準仕様による [5.5.2][
	漏水の有無及び鯖汁の流出の有無を調査する。 モルタルの浮き部分を表示する。また、モルタルの欠損部の形状寸法等	_{た調本} / _				
		- M日/ の。			浮き部改修工法	簡易気密型ドア ・使用する ※使用しない
	コンクリート表面のはがれ及びはく落部を調査する。	/ [欠損部改修工法 ロスラントス制 建見	表面仕上げ ※HL仕上げ ・鏡面仕上げ [5.6.2/[
1.お放工され様数	調査報告書の部数 ※1部			● 水洗い工法 ※上記処理範囲以外の既存仕上面全体 - 大山・岡郡・井	8 ステンレス製建具	
)改修工法の種類		<u>[4. 1. 4∼5]</u>		下地調整材	[4. 2. 2] [4. 6. 3]	曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ
	外壁の種類 種類 改修工法	I		※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上げ塗料	,= 	簡易気密型ドア ・使用する ※使用しない
	・コンクリート ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法・Uカットシール材充填工法・	ールエ法	7 仕上塗材仕上げ] [4. 2. 2] [表4. 2. 4~5]	
	打放し仕上げ ・欠損部 ・充填工法 ・			種類 呼び名 仕上のう		マスターキー・製作する・製作しない(既存マスターキーに合わせる)
	・モルタル塗り ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法・Uカットシール材充填工(法・シ	ールエ法			告色骨材砂壁状	モノロック ゴール() 美和ロック()
	仕上げ ・欠損部 ・充填工法 ・モルタル塗替工法			・可とう形外装薄塗材E ・砂壁状・1	⊅ず肌状 ・	シリンダー箱錠 ゴール() 美和ロック()
	・浮き部 ・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法			・防水形外装薄塗材E ・ゆず肌状	· 凹凸状	シリンダー本締り錠 ゴール() 美和ロック()
	. /			・複層仕上塗材 ・複層塗材CE /・ゆず肌状	・凸部処理 ・凹凸状	ドアクローザー ダイハツディーゼル機器(大島機工、ニッカナ)
	●タイル張り仕 ●ひび割れ部 ・樹脂注入工法 ・ リカットシール材充填工法			・可とう形複層塗材CE 上塗材・3	水系アクリル	日本ドアチェック製造、美和ロック、リョーゲ
	上げ ・欠損部 ●タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法			• 複層塗材 E	K系アクリルシリコン	フロアヒンジ 大島機工(ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造、リ
	● アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法			・複層塗材RE 外観 ※つ・	やあり ・つやなし	ヒンジクローザー 大島機工(ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造
	○目地 ・目地ひび割れ部改修工法 / ○伸縮調整目地	修工法		・防水形複層塗材CE・メ	タリック ロー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	リョービ、デンセイオートテック
	・薄付け仕上塗材塗り ・可とす形改修用仕上塗材塗			・防水形複層塗材 E 防水形の増塗	材 ・行う	押板、取手樹建工業、ユニオン
	・厚付け仕上塗材塗り ● 各種塗料塗り			・可とう形改修用 ・可とう形改修塗材E 菊水化学工業		
	・複層仕上塗材塗り・マスチック塗材塗り			仕上塗材 「ア連り材「ソフトリカル・リー」 大連り材「ソフトリカル・リー」 エスケー化研(+ 上塗り材「ピュートップシリコン」 株) 10 自動ドア開閉装置	開閉方法 ※引き戸 ・多機能トイレ用引き戸 / [5.8.2~3][表5.
				下達り材「水性の計・ファイン	」+上塗り材「水性コンボシリコン」	センサーの種類 ・光線センサー ・熱線センサー・・
ひび割れ部改修工法	・樹脂注入工法 (・モルタル面 ・躯体コンクリート面) [4.	. 4] [4. 3. 4]			- 上塗り材「水性シリコンコニ」	とフタ の1年級 元禄 とフタ 然称とフタ
いい可4に呼び修工法		. 4] [4. 3. 4]		*** *** *** *** *** *** *** *** *** *	上記同等品とする	日野田牧 ※計枚挿井5 0 21- ト Z
		75		※型工法はレーフー ※塗工程及び塗布量 ※ 下海は甘の海	はメーカー仕様による	品質規格 ※改修標仕5.9.3による [5.9.3][i
	※自動式低圧エポキシ 0.2以上~1.0未満 ※200~300 ※	—— I	0 =0.51 == 0	一 同、下至り材の登	^{術室は海塗を適用する} 引戸装置	・製造所標準仕様による
	樹脂注入工法	—— I	8 設計数量	1 20 20 1	数 景 雄 孝 ① 重量シャッター	■ 種類 ・管理用シャッター ・外壁用防火シャッター [5.10.2][表
	・手動式エポキシ樹脂 0.2以上~0.3未満 ※50~100 ※40・	I		外壁部位 種類 工法	数 量 備 考 📗 😈 単重ンヤッダー	● 「
	注入工法 0.3以上~0.5未满 / ※100~200 ※70 ・	I		・コンクリート打放し面 ・ひび割れ ※ リカットシール材充填工法		/ /
	・機械式エポキシ樹脂 0.5以上~1.0未満 ※150~250 ※130・	I		l / 		· /
				・欠損部 ※エポキシ樹脂モルタル充填工法		スラット 材質 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・溶融亜鉛めっき鋼板 [
	注入材料	[4. 2. 2]		<u>/</u>	箇所	形状 ※インターロッキング形 ・オーバーラッピング形 [!
	※建築補修用注入エポキシ樹脂 ≠ (IS A 6024低粘度形又は中粘度形)			・モルタル塗り仕上げ面 ・ひび割れ ※Uカットシール材充填工法	m	シャッターケース(防火・防煙以外の)・設ける ②設けない
	検査(コア抜取り) ・行わなが			・自動式低圧エボキシ樹脂注入工法	m	危害防止機構・障害物感知装置(自動閉鎖型)
	※行う (抜取り部の補修方法:)		· 欠損部 ※充填工法		・「防火区画は用いる防火設備等の構造方法を定める件」に適合する
	・ Uカットシール材充填工法 / [4.1.4][4.	. 2] [4. 3. 5]		<u> - - </u>		耐風圧性能 () N/m (一般重量・外壁用防火のもの)
	充填材料 ※1成分形及は2成分形ポリウレタン系シーリング材	I		・浮き部 ※アンカーピンニング部分エポキシ		/
	・可とう性エポキシ樹脂	I		樹脂注入工法	㎡ 13 軽量シャッター	開閉形式 ※手動式 ·★部電動式(手動併用) [5.11.2][表5
	ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない					スラット 材質 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・ [!
	·シール工法 (4.1.4][4.	. 2] [4. 3. 6]	1/	────────────────────────────────────		形状 ・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形 [5
	シール材料 ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂		V	尚、数量の10%を越える増減が生じた場合は協議の上、契約変更を	テう事ができる	耐風圧性能 (/) N/m ³
欠捐部改修工法	※充填工法 [4.1.4][4.	21 [4 3 7]	Λ	同、	1,74% (5.9%	
人民的处势工丛	充填材料 ・ポリマーセメントモルタル(・モルタル面 ・コンクリート面	1/	′		14 その他のシャッタ-	・オーバーヘッドゲア
	・エポキシ樹脂モルタル(1 改修工法	・かぶせ工法 ・撤去工法 (・引き抜き工法 ・はつり工法)	[5. 1. 3]	・リンググリルシャッター
	・モルタル塗養え工法 (改修標仕4.2.2(7)による)	[5		~/	
5 浮き部改修工法	[4. 1. 4] [4. 4. 10~15]	= 4 4 0 41 E	・	・建具見本の製作・特殊な建具の仮組	[5.1.5] 15 ガラス	種類・厚さ ※ 建具表による [5
浮さ部以修工法		(4. 4. 3. 4.)	2 元本の表11寸	・ 注 元 本 の 表 計 ・ 付 か な 注 共 の 収 恒	[0.1.0]	
	改修工法の種類 アンカーピンの本数(本/m²) 注入口の箇所数(箇所/	 		以如に示する神具(コロントサs)+吟!)	[5 2 2] [表5 2 1] 16 ガラスの留め材	種別(区分は図示による) [5]
	(モルダルを撤去しない場合) 一般部 指定部 一般部 指定部	 	₹	外部に面する建具(フロントサッシは除く) 振り お見にか 無効か よのか かり かり カラス・ケー	Z [0.2.2][3(0.2.1)	※シーリング材 (SR-1, 沙リコ-)系、9030G) ・ガスケット
	・アメカーピンニング部分 ※ 16 ※ 25	※25ml ₹		種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mp)	施工箇所 ※図示 17 ガラス用フィルム	************************************
	→ポキシ樹脂注入工法 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	 ::		· A種 S-4 · B種 S-5 A-3 W-4 **X0 **100	☆四小 // カラ人用ノイルム	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	/アンカーピンニング全面 ※ 13 ※ 20 ※ 12 ※ 20				-	1 /
	/ エポキシ樹脂注入工法 ・ ・ ・ ・	—— I [¬]	·	<u>・C種 S-6 A-4 W-5 70 ·100 ·</u>		性能値 ※層間変位試験に適合するもの (B法)
X	・アンカーピンニング全面 ※ 13 ※ 20 ※ 12 ※ 20	- 25ml		表面処理 ※BB-1種 ・BB-2種(※プロンズ系 / ラック ・ステンカラー)	[5. 2. 4] [表5. 2. 2]	Ä
/	ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ ・ ・ ・	<u></u>		内部建具	[5. 2. 4] [表5. 2. 2]	
/	・注入口付アンカーピンニング部分 ※ 9 ※ 16	※25m l		表面処理 ※AC-1又はBB-1種 ・AC-2又はBB-2種(※プロンス゚系 ・プラッ	/ [†] ・ステンカラー)	
/	エポキシ樹脂注入工法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		1	l	_ /	
/	・注入口付アンカーピンニング全面 ※ 9 ※ 16 ※ 9 ※ 16	 3 ≈ 25 m l	4 網戸	防虫網	[5. 2. 3]	
/	エポキシ樹脂注入工法 ・ ・ ・	 		網の種別 ※ステンレス (SUS316)製 ・合成樹脂製 ・ガラス繊維	唯入り合成樹脂製	
/	・注入口付アンカーピンニング全面 ※ 9 ※ 16 ※ 9 ※ 16			形 式 ※可動式 ·固定式	/	
/	ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ ・ ・ ・ ・	⊥ [/	
/	※狭幅部におけるアンカーピン本数は、幅中央に5本/mとする	I	5 樹脂製建具	外部に面する建具 (フロントサッシは製造所の仕様による)	[5.3.2][表5.3.1]	
/	アンカーピン	[4. 2. 2]		種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm)	施工箇所 /	
/	材質 ※ステンレス SUS304、呼び径 4 mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの	I		A種 S-4 W-4 ⋅ 70	※図示	
/	注入口付アンカーピン	[4. 2. 2]		<u>・B種 S−5</u> A−4 W−5 ·100	/	
'	材質 ※ステンレス SUS304、呼び径外径 6 mm	I		· C種 S-6	/	
		I		・防音ドアセット及び防音サッシの適用 種別 ・T-A種 ・T-B種	[5.3.2][表5.3.2]	
		I		・断熱ドアセット及び断熱サッシの適用 種別 ・H-A種 ・H-B種 ・H-	1 1	
		I			· /	
		I	\mathcal{X}		1/ 1	
			<u> </u>		V I	

 電ケ浦会館照明設備改修工事
 四日市建築防災設計
 改修特記仕様書2
 Non
 Non
 Aー02

	33 カーテン	・既存再使用する (養生方法) [2.3.1][5.1/6]	1	8 合成樹脂エマルショ	塗り工法の種別 ・A種 ※B種 ・C種 [7.10.2][表7.10.1]	10 モルタル及び	[8. 2. 6] [8. 2. 12] /
	00 % / 5	・新設する (操20.2.14)	1	ンペイント塗り(EP)	至7工从60往前 月往 从5往 5往 5往	グラウト材	グラウト材 ※無収縮グラウト材 (圧縮強度 45N/mm ² 以上)
			1		### 0 \$41 0 ## DI 4 # DI 5 DI 5	2 2 7 1 19	/
		10 - 1 m	1	1	新規の塗りの種別 ・A種 ・B種 [7-11.2][表7.11.1]		太平洋プレユーロックス(太平洋マテリアル) マスターフロー540グラウト(BASFポゾリス)
		・箱ひだ等・片びだ ・片引 ・引分	1	塗料塗り(EP-T)	塗替えの場合		ノンシュリンクライトグラウト(ABC商会) デンカ プレタスコン TYPE-1(電気化学工業)
		・箱ひだ等・片ひだ ・片引 ・引分	1		既存塗膜 下地調整 種 別		社団法人 公共建築協会の評価を受けているもの
		防炎加工 消防庁認定の ② とする	1		合成樹脂エマルション模様塗り ※RB種 ※A種		
		カーテンレール ・アルミニウム製 ※スチンレス製 ※C型又はD型	1		· RC種 ※C種		柱底等の均しモルタル ※無収縮モルタル ・モルタル
		カーテンきれ地のはぎれ ※半幅未満は使用しない ・一幅未満は使用しない	1				1
			1		平滑な塗料塗り ※RB種 ・A種 ・B種		太平洋プレユーロックス(太平洋マテリアル) マスターフロー870グラウト(BASF/ポゾリス)
		暗幕用カーテンの重なりは300mm以上とする。なお、重ねか所は下記による。	1		- RC種 ・C-1種 ・C-2種		ノンシュリンクライトグラウト(ABC商会) デンカ プレタスコン TYPE-1(電気化学工業)
		・両端 ・上部 ※召合わせ	1				社団法人 公共建築協会の評価を受けているもの
	③ 点検□	天井点検口 ※アルミニウム製 (※額縁タイプ ・目地タイプ)	1	10 ウレタン樹脂	塗り工法の種別 A種 ※B種 [7.12.2][表7.12.1]	11 無筋コンクリート	[8.11.1~3]
		床点検口 //・※アルミニウム製 ●ステンレス製 受け枠(・)	1	ワニス塗り(UC)	塗料の種別 ※1液形・2液形		振 新 設計基準強度 Fo スランプ 知典共の是十十計 海田祭正
		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	1		木部 工法は改修標仕表7.13.1による [7.13.2][表7.13.1]		種 類 欧町奉牛油及下の
	05 75 1 /2 1	15 55 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1	(0S)	1. 10. 2 (g. 10. 1)		
	35 流し台ユニット	種類 寸法 適用内容 規格·品質等	1	' /			※普通コンクリート ※18 ※15又は18 ※25
	/	流し台 ※1200 · 1500 · トラップ付 ※優良住宅部品	1	12 木材保護塗料塗り	工法 · A種 ※B種 [7.14.2][表7.14.1]		
	/	_ コンロ台 ※600 ・700 ・ バックガード付	1	(WP)			
	/		1			12 調合管理強度	構造体強度補正値 (S) [8.2.5][表8.2.4]
1/	ľ l		l /	1			(普通ポルトランドセメント)
	1 材料一般	・屋内の壁及び天井の塗装仕上げは、防火材料とする。 [7.1.3]	1	1 鉄筋の種類	[8. 2. 1] [表8. 2. 1]		打 設 期 間 補正値(N/mm²) 備 考
7	1 171 144 1112	/	l 8				
章		・次の箇所を除き防火材料とする。(章		種類の記号 径		3/ 1~7/ 9 9/ 9~11/23 3.0
*		建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 /	+		· S D 295 A ※ D 16以下		11/24~2/28 6.0
塗			耐		· S D 345		7/10~9/8 6.0 / 暑中コンクリート
	2 下地調整	RB種の場合の既存塗膜の除去範囲 (7.2.1]	震				
装		下地調整 [表7.2.1~7]	良改	2 溶接金網	網目の形状 (※ 150x150 ・ 100x100 ・ 50×50) [8.2.2]	13 コンクリートの	
改修		下地調整 下地調整の種別 備 考	修修	~ /ISIX W (N)	""		1
一一					鉄線の径 (mm) (※ 6.0 ・3.2	試験	20m3以下の場合の試験については、監督職員の指示による。
工事		RA種 ※RB種 ・RC種 新規はRA種(不透明塗り)	事	l	/		20~50m ³ の場合は任意の一車より試料を採取 U、各3個供試体を作成する。
#		鉄鋼面 ・RA種 ※RB種 ・RC種 新規はRA種	#	3 鉄筋の材料試験	※JIS規格品については径の異なるごとに 1 t 未満の場合は規格証明書 [8.2.3]		50m ³ 以上は 改修標仕8.8.3による。
1		亜鉛めっき面 ・RA種 ※RB種 ・RC種 新規鍼製建具はRC種	1		の提出を省略することができる。		/
		鋼製建具以外の新規はRA種	1	4 継手及び定着	鉄筋の継手方法 [8.3.4][表8.3.3]	14 型枠	打ち放し仕上げの種別 [8.1.4]
		モルタル、プラスター面 ・RA種 ※RB種 ・RC種	1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	 ・径 D 19mm以上の柱、梁の主筋はガス圧接、その他は重ね継手 		種別施工箇所
			1				
		/ Mixitalize	1		·重ね継手		· A 種
		せっこうボード、その他ボード面 ・RA種 ※RB種 ・RC種 が 新規せっこうボードで目地	1		継手位置 ※標仕各部配筋参考図による ・図示 [8.3.4]		
			1		定着長さ ※改標仕[表8.3.4]による ・図示 (8.3.4][表8.3.4]		· C 種
		既存モルタル下地面等のひび割れ部の補修 [表7.2.4~6]	1				外部に面するコンクリート打ち放し仕上げの打増し · 20 ※図示 [8.7.8]
		・行わない ・行う(補修範囲及び補修方法は図示)	1	5 帯筋組立の形	※各部配筋参考図図1.1による ・図示 [8.3.4]		
	3 錆止め塗料塗り	塗料種別 [7.3.2]	1		/		
	0 31 E 07 E 11 E 7	/	1	C PA O E1 00 TL 1514234	WELL 6 th 37 th 4 th 7 th 1		
		鉄鋼面 ※A種 () ・B種 [表7.3.1]	1	6 壁の配筋及び補強	※標仕各部配筋参考図4節による ・図示 [8.3.7]		
		仕上げEP-Gの場合 ・ A種() ※B種 亜鉛めっき鋼面 ※A種 ・ B種 [表7.3.2] 仕上げEP-Gの場合 ・ A種() ※C種 鋳止め塗料塗り [表7.3.3~4] 鉄鋼面塗り替えの場合の種別 ・ A種 ・ B種 ※C種					
					圧接部の確認試験 [8.3.8]		
					※超音波探傷試験 · 引張試験		
					コンクリートの種類 ※普通 メンクリート ・軽量コンクリート [8.1.3]		
		/	1	種類及び強度			
		亜鉛めっき面の塗りの種別 ・A種 / B種 ※C種	1		普通コンクリートの類別 ※/類 · II類 [8.1.3] [表8.1.1]		
		亜鉛めっき面EP-G塗り替えの場合の種別 ・A種 ・B種 ※C種	1		仕上りの平たんさ種別 / a種 ・b種 ・c種 [8.1.4][表8.1.5]		
		新規鉄鋼面、亜鉛めっき面の塗りの種別 ※標仕18.3.3による	1		普通コンクリートの設計基準強度 [8.1.4]		
			1		設計基準強度 F o / 施 工 箇 所		
	4 合成樹脂調合	塗り工法 [7.4.1~5][表7.4.1~3]	1		* 21 (N/mm ²)		
	ペイント塗り(SOP)	下地の種類 塗料種類 塗り工法	1		. /		
	1771 = 7(001)	木部 ※1種・2種 新規(屋外 ※A種・B種 屋内 A種※B種)	1				
			1		47 F h		/
1		塗替え(※B種・)	1		軽量コンクリー の設計基準強度 [8.1.3~4][8.9.1~2][表8.9.1]		<i> </i>
1			1		設計基準強度 Fo 気乾単位容積質量 種 別 施工箇所		[/
1		亜鉛めっき面 / ※1種 ・2種 ※改修標仕7.4.5よる ・	1		(N/ym ²) (t/m ³)		y I
1			1		※ 21 (N/mm) ※1.9程度 ※1種	/	1
1	5 アクリル樹脂系非水	塗替えの場合の▼地調整 ・RA種 ※RB種 ・RC種 [7.2.5~6]	1		. /	/	
1	分散形塗料(NAD)	塗り工法の種別 ・A種 ※B種 [7.7.2][表7.7.1]	1			/	
1			1	0 7 7 7 11 - 1 7 11 11	/ ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 [8.2.5] [表8.2.3]	/	
	C 파살····································	今井 - の 日 人 の T 14 研 数	1	リョングリートの何料			
	0 剛1矢1生空料空り(DP)	塗替えの場合の下地調整 ・RA種 ※RB種 ・RC種 [7.2.2][表7.2.1] ~ [7.2.7][表7.2.7]	1	/	・高炉セメントB種 適用箇所()		
		・鉄鋼面 工法は、表7.8.1 種別は新規はA種、塗替はB種) [7.8.2][表7.8.1]	1		・フライアッシュセメントB種 適用箇所()		
		・亜鉛めっき面 工法は、表7.8.2 種別は新規はA種、塗替はB種) [7.8.3][表7.8.2]	1		・アルカリシリカ反応による区分 ※A		
		≠塗種別	1		・フェロニッケルスラグ細骨材は使用しない		
		/ · JISK5659 (1級) ふっ素系樹脂塗料	1			/	
		- JISK5659 (2級) シリコン系樹脂塗料	1			/	
1	<i>/</i> /		1	/		/	
1	/	 JISK5659(3級) ポリウレタン系樹脂塗料 	1	I /		/	
1	/	・コンクリート面、押出成型セメント板面 [7.8.4][表7.8.3]	1	/		1/	
1	/	工法は、表7.8.3 種別は(・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2 ・C-1種 ・C-2種)	1	1/		<i>V</i>	
1	/	上塗種別 ・ JISK5658 主要原料 ふっ素樹脂(1級) ・ JISK5658 主要原料 シリコーン樹脂(2級)		I /		/	
1	/			1		/	
1	/						
1	/	 JISK5658 主要原料 ポリウレタン樹脂(3級) 	1/				
1	,/		۲	1	V	1	
1	7 つか有合成樹脂	[7.9.2~5][表7.9.1~4]	I				
1	ヺ マルション ┃	下地の種類 塗り工法	I				
1	/ペイント塗り(EP-G)	新規(・A種 ・B種) 塗替え(※B種 ・)	1				
1	y I	木部 新規(※A種 ・) 塗替え(※B種 ・)	1				
1 /	1 I	鉄鋼面 新規(・A種 ・B種) 塗替え(※B種・)	1				
\perp			1				
1/		亜鉛めっき鋼面 新規(・A種 ・B種) 塗替え(※B種・)	1				
<u> </u>		塗替えの場合のシーラー ※改修標仕 7.9.2による ・行わない					

個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報(特定個人情報(個人番号をその内容に含む個人情報をいう) を含む。) を取り扱う場合においては、下記条文を遵守すること。 (基本事項) 第1 この契約による工事の施工者(以下「乙」という。)は、この契約による工事を施工するに当たり、個人情報(特定 個人情報(個人番号をその内容に含む個人情報をいう。)を含む。以下同じ。)を取り扱う際には、個人情報の保護 の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 (施工者の義務) 第2 乙及びこの契約による工事に従事している者又は従事していた者(以下「乙の従事者」という。)は、当該工事を施 エするに当たり、個人情報を取り扱うときは、四日市市個人情報保護条例(平成11年四日市市条例第25号。以下「条 例」という。) 第11条に規定する義務を負う。 2 乙は、この契約による工事において個人情報が適正に取り扱われるよう乙の従事者を指揮監督しなければならない。 第3 乙及び乙の従事者は、この契約による工事を施工するに当たって知り得た個人情報を当該工事を施工するために必要 な範囲を超えて使用し、又は他人に知らせてはならない。 2 乙は、乙の従事者が在職中及び退職後においても、前項の規定を遵守するように必要な措置を講じなければならない 3 前2項の規定は、この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。 (適正な管理) 第4 乙は、この契約による工事に係る個人情報の漏えい、滅失又は改ざんの防止その他の個人情報の適正な管理のために 必要な措置を講じなければならない。 2 乙は、個人情報の適正な管理のため、管理責任者を置くものとする。 3 管理責任者は、個人情報を取り扱う工事の従事者を必要な者に限定し、これらの従事者に対して、個人情報の管理方 法等について適正な指導管理を行わなければならない。 4 四日市市(以下「甲」という。)は、必要があると認めたときは、個人情報の管理状況等に関し、乙に対して報告を 求め、又は乙の作業場所を実地に調査することができるものとする。この場合において、甲は乙に必要な改善を指示 することができるものとし、乙は、その指示に従わなければならない。 第5 7.及び7.の従事者は、この契約による工事を施工するために、個人情報を収集するときは、当該工事を施工するため に必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により収集しなければならない。 (再提供の禁止) 第6 乙は、あらかじめ甲の承諾があった場合を除き、この契約による工事に係る個人情報を第三者に再提供してはならない。 2 乙は、前項の承諾により再提供する場合は、再提供先における個人情報の適正な取り扱いのために必要な措置を講じ なければならない。 3 前項の場合において、乙は、再提供先と本注意事項に準じた個人情報の取り扱いに関する契約を交わすものとする。 (複写、複製の禁止) 第7 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、この契約による工事を施工するに当たって 甲から提供された個人情報が記録された資料等(以下「資料等」という)を複写し、又は複製してはならない。 (持ち出しの禁止) 第8 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、資料等(複写又は複製したものを含む。第9 において同じ。)を契約書に指定された作業場所から持ち出してはならない。 2 甲及び乙は、乙が前項の指示又は承諾により資料等を持ち出す場合、その内容、期間、持ち出し先、輸送方法等を書 面により確認するものとする。 3 前項の場合において、乙は、資料等に施錠又は暗号化等を施して関係者以外の者がアクセスできないようにするとと もに、資料等を善良なる管理者の注意をもって保管又は管理し、漏えい、滅失及びき損の防止その他適切な管理を行 (資料等の返還) 第9 乙は、この契約による工事を施工するに当たって、甲から提供された個人情報が記録された資料等を、当該工事の終 了後速やかに甲に返還、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により廃棄、又は消去する場合を除く。 2 前項の廃棄又は消去は、次の各号に定めるほか、他に漏えいしないよう適切な方法により行うものとする。 (1) 紙媒体 シュレッダーによる裁断 (2) 雷子媒体 データ完全消去ツールによる無意味なデータの上書き、もしくは媒体の破砕 3 乙は、第6の規定により甲の承諾を得てこの契約による工事に係る個人情報を第三者に再提供したときは、当該工事の 終了後速やかに当該第三者から資料等を回収のうえ甲に返還し、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示 により、乙又は第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合を除く。 4 前項ただし書の規定により、第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合においては、乙は、当該資料等が廃棄、又 は消去されたことを直接確認しなければならない。 (研修・教育の実施) 第10 乙は、乙の従事者に対し、個人情報の重要性についての認識を深めるとともに、この契約による工事における個人情 報の適正な取り扱いに資するための研修・教育を行うものとする。 第11 乙は、条例第44条、第45条、第47条及び第48条に規定する罰則適用について、乙の従事者に周知するものとする。 第12 乙は、この契約による工事の施工に当たって、個人情報の取り扱いに関して苦情があったときは、適切かつ迅速な処 理に努めるものとする。 第13 乙は、この個人情報取扱注意事項に違反する事故が生じ、又は生じるおそれがあることを知ったときは、凍やかに甲 に報告し、甲の指示に従うものとする。 (契約解除及び損害賠償) 第14 甲は、乙又は乙の従事者がこの個人情報取扱注意事項に違反していると認めたときは、契約の解除及び損害賠償の請 求をすることができる。

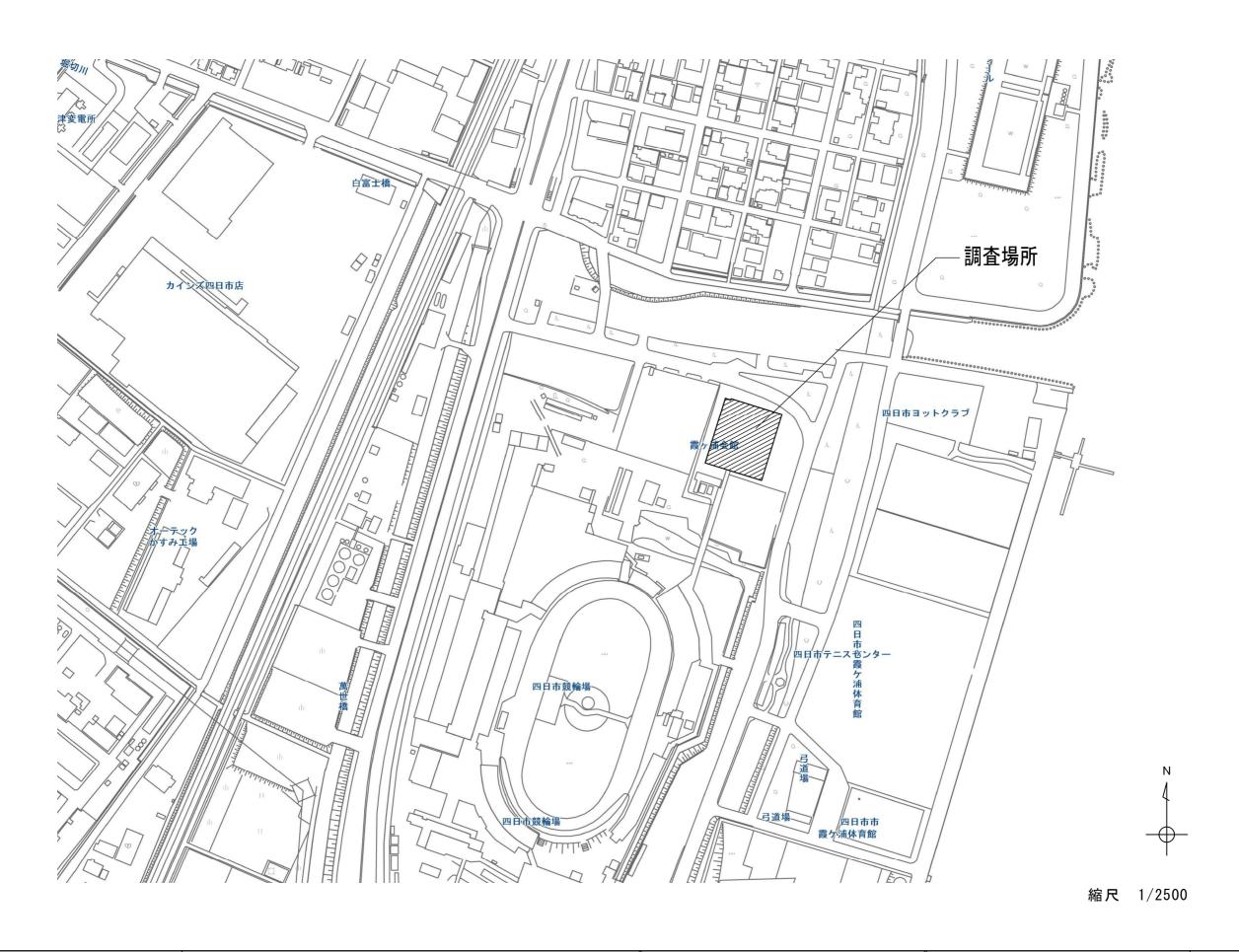
霞ヶ浦会館照明設備改修工事

正 : 備考

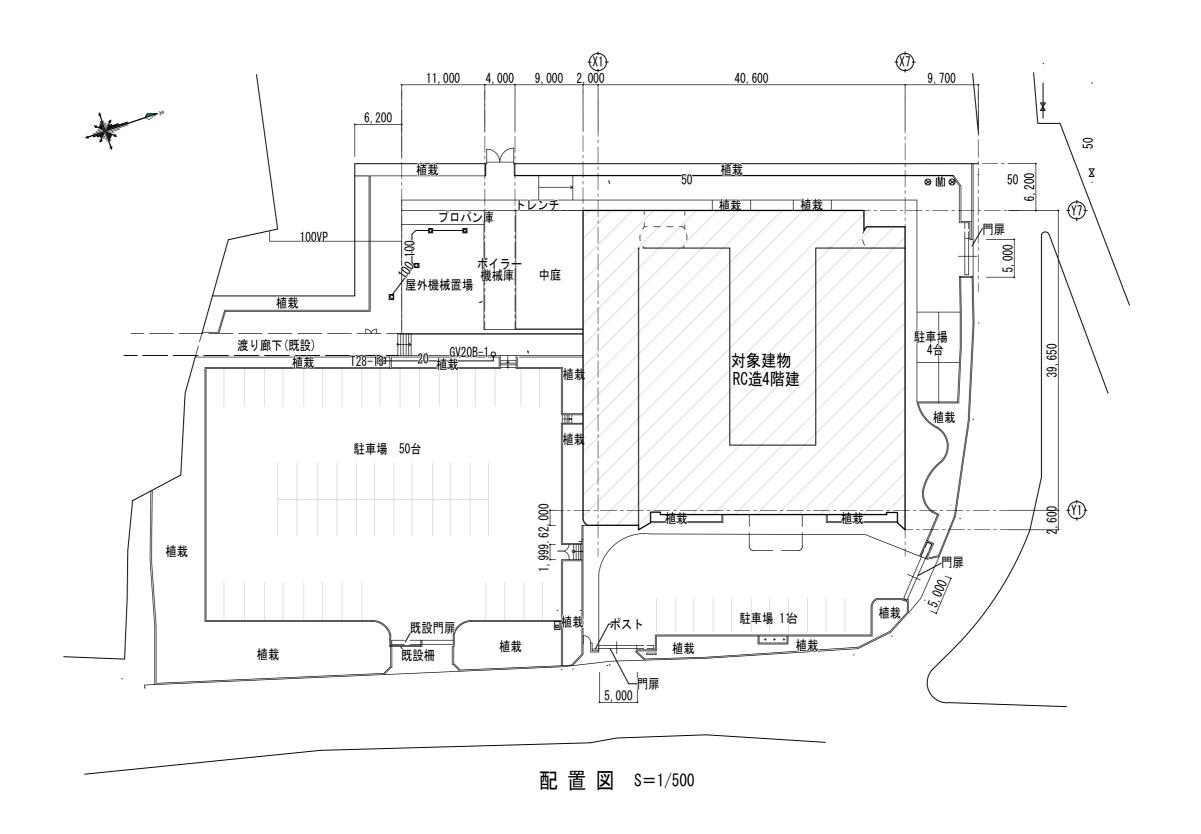
四日市建築防災設計 三重県四日市市栄町4-1 四日市建設業会館2F e-mail:info@yonkenbou.or.jp 三重県知事登録 1-2058号 一級建築士 134289号 黒田 貞信 改修特記仕様書4 scale
Non

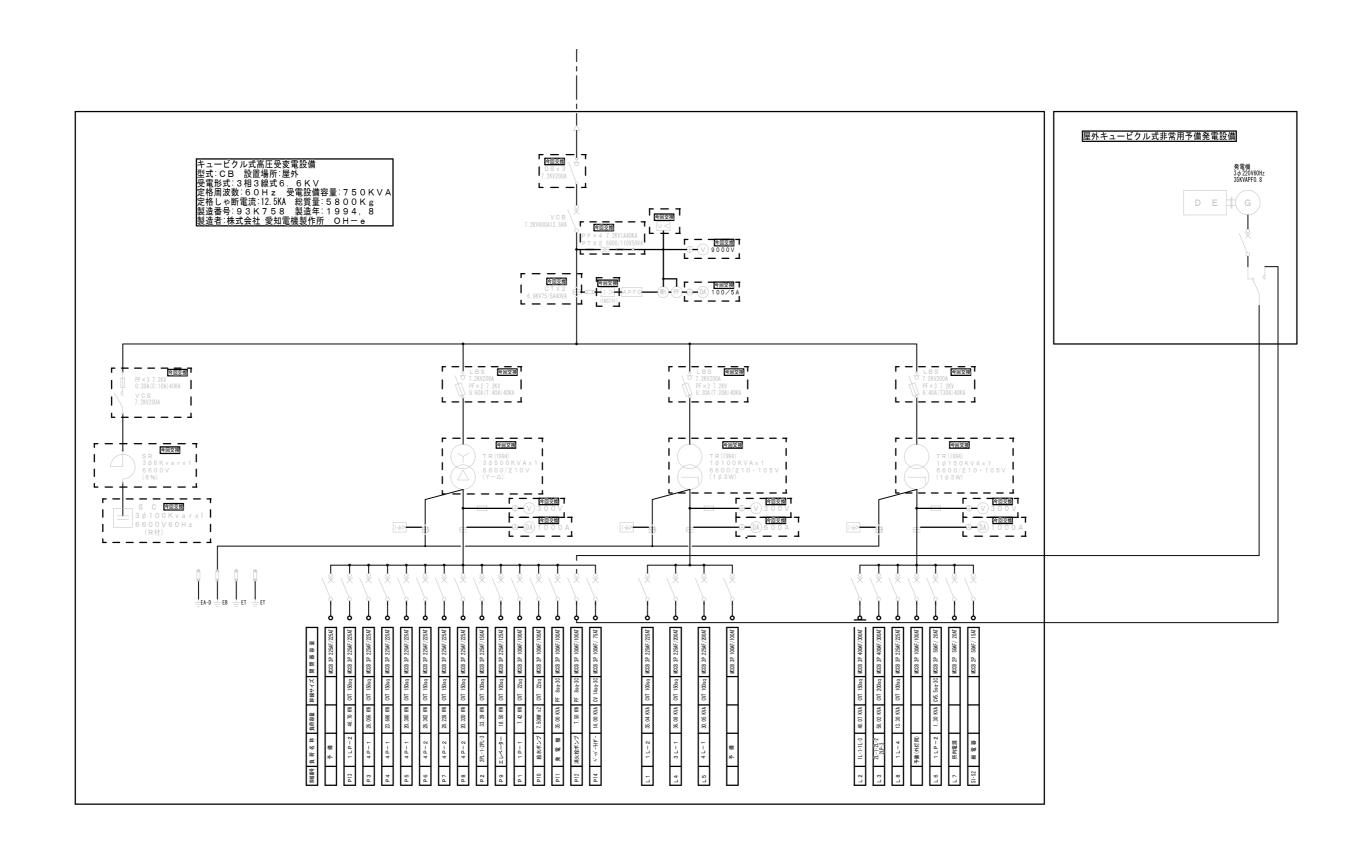
approved check drawn date
y. miyata y. miyata 2,025 年 03月 20 日

A-04

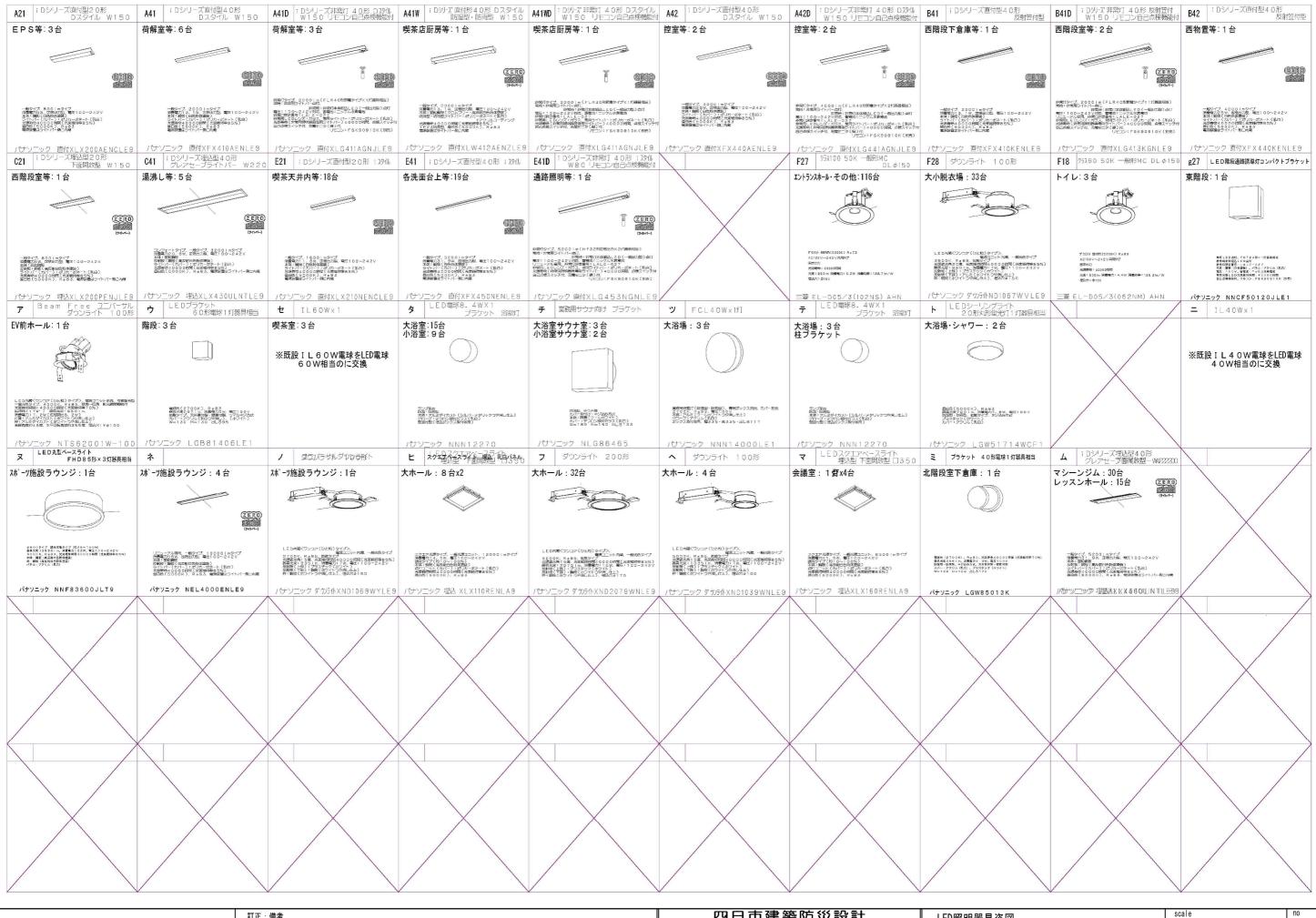


電子 (1) までは (1) ままり (1) ままり





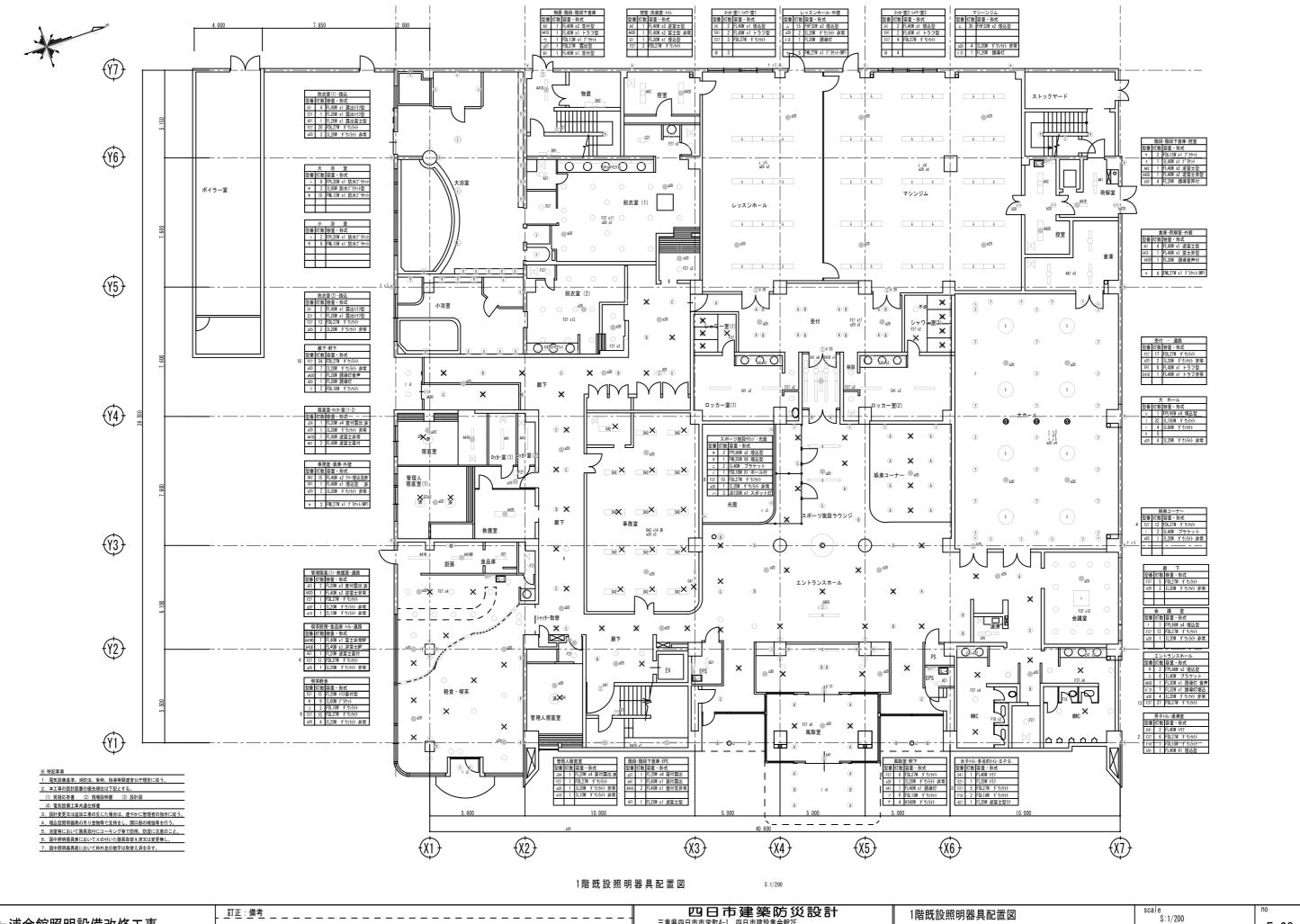
電ケ浦会館照明設備改修工事 | Stare : 備考 | プロ日市建築防災設計 | 送電系統図 | Stare : Mon | E=重県四日市市栄町4-1 四日市建設業会館2F | One - mail: info@yonkenbou.or.jp = 重県知事登録 1-2058号 - 級建築士 134289号 黒田 貞信 | Stare : Mon | E-01



霞ヶ浦会館照明設備改修工事

四日市建築防災設計 三重県四日市市栄町4-1 四日市建設集会館が e-mail:info@yonkenbou.or.jp 三重県知事登録 1-2058号 - 級建築士 134289号 黒田 貞信
 LED照明器具姿図
 scale Non

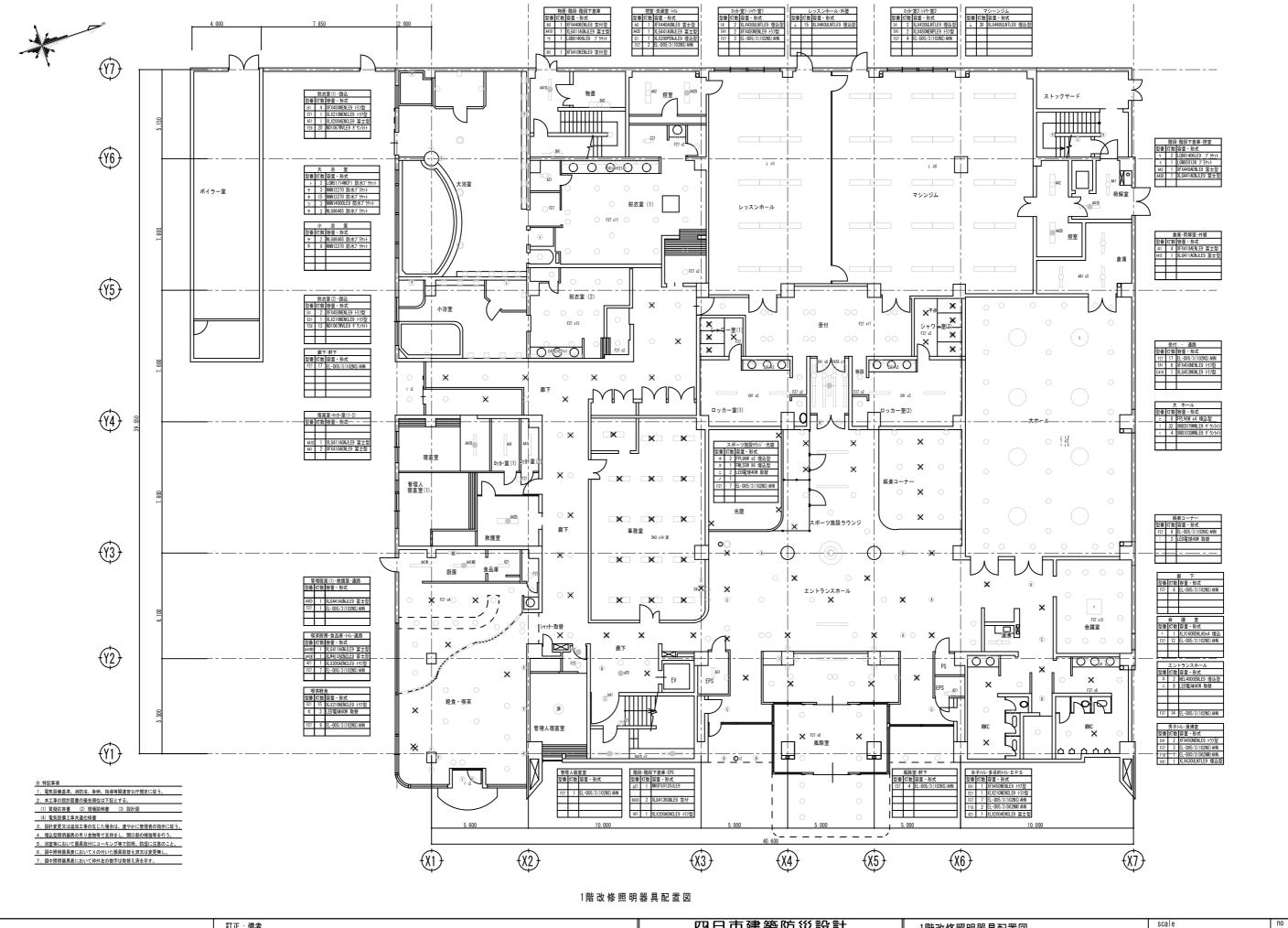
 approved y. miyata
 check y. miyata
 date 2,025 年 03月 20日



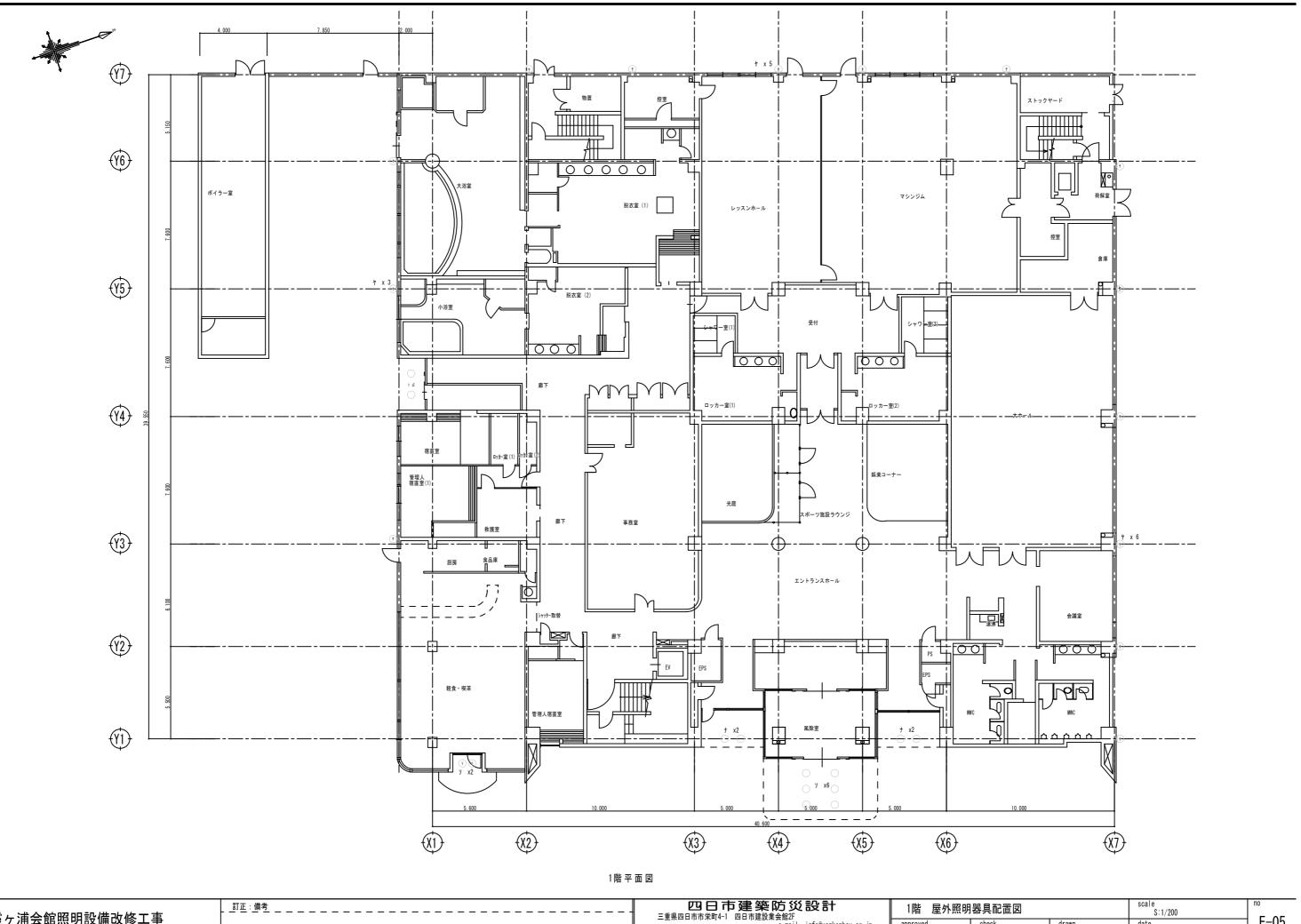
霞ヶ浦会館照明設備改修工事

三重県四日市市栄町4-1 四日市建設業会館2F e-mail:info@yonkenbou.or.jp 一級建築士 134289号 黒田 貞信 三重県知事登録 1-2058号

E-03 approved drawn date 2.025 年 03月 20日



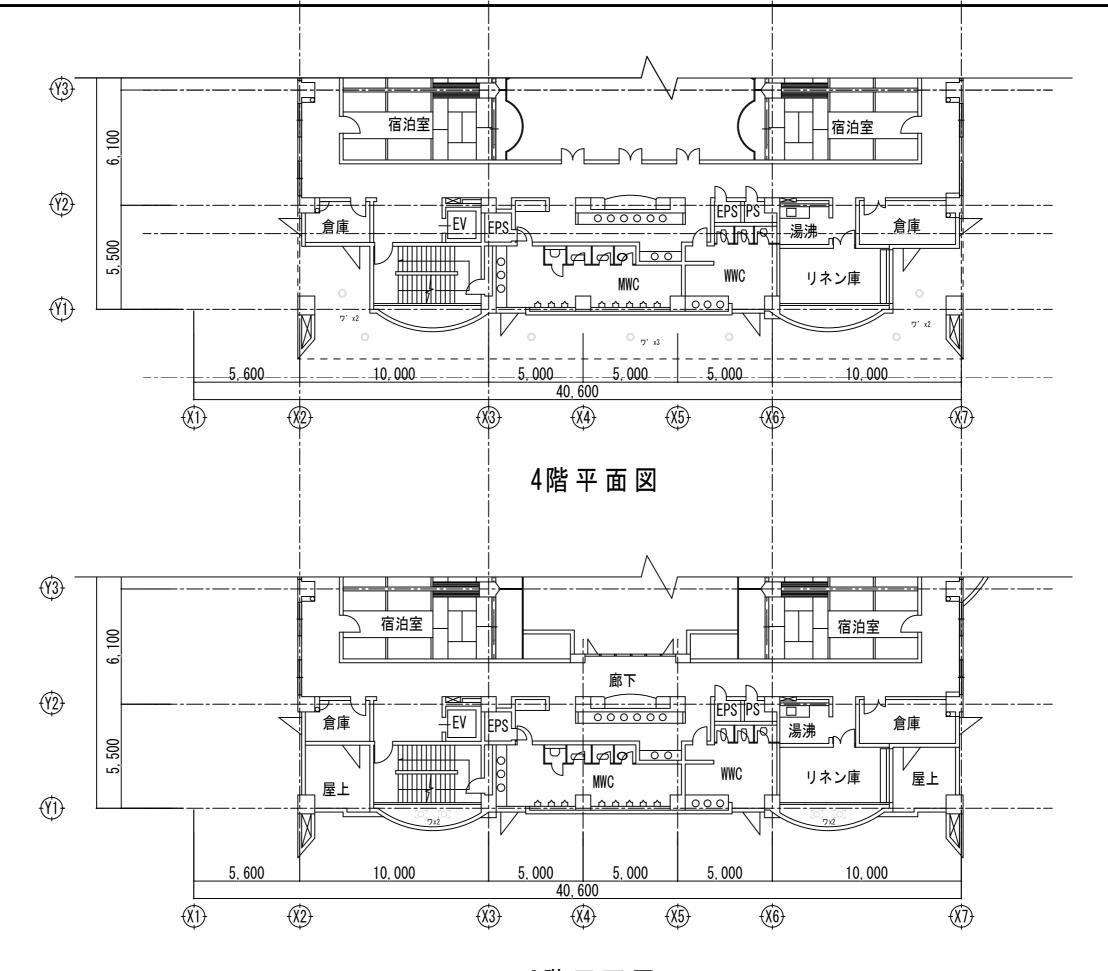
 霞ヶ浦会館照明設備改修工事
 「訂正:備考」
 「四日市建築防災設計
 1階改修照明器具配置図
 Scale S:1/200
 No. 1/200
 E-04



霞ヶ浦会館照明設備改修工事 drawn <u>y</u>.miyata E-05 e-mail : info@yonkenbou.or.jp 一級建築士 134289号 黒田 貞信 approved date 2,025 年 03月 20日 三重県知事登録 1-2058号







3階平面図

毒. 光 人始四四三进北坡工事	訂正:備考	四日市建築防災設計	3·4階 外壁·屋外照明器具配置図			scale S:1/200	no
段ケ冲会路照明設備以修工争	 	二里宗四ロリリオ叫キー 四ロリ廷武夫云郎に e-mail:info@yonkenbou.or.jp 二重県和寓春録 1-2058号 —級建築十 134289号 里田 貞信	approved	check	drawn v mivata	date 2 025 年 03 日 20 日	E-06